

長野高校同窓会 120 周年記念事業 太陽光奨学金創設趣意書

長野高校は 2019 年、創立 120 周年を迎えます。これを記念して一般社団法人長野高等学校金鷗会（同窓会）は、現役生徒の皆さんの学習を支援するために、奨学金を設置することにしました。この奨学金は高い志をもって進学を目指す生徒のために、上級学校入学時に一括支給する奨学金で、返還を求めない完全給付型とします。

同窓生よりおくれた原資をもとに長野高校屋上に太陽光パネルを設置します。国の固定価格買い取り制度により、20 年間にわたって 18 円/kw、毎年 100 万円ほどの売電収入が見込まれます。経費等を差し引いて、その全額を 20 年間、奨学金として活用する所存です。

2011 年 3 月 11 日、三陸沖を震源とした大地震とそれに伴う巨大津波に襲われ、およそ 2 万人にもおよぶ死者・行方不明をだすという東日本大震災に見舞われました。さらに福島県では東京電力福島第一原発が全電源喪失による制御不能に陥り、ついにメルトダウンを引き起こすという大惨事がおきました。この結果、多くの人々が避難を余儀なくされ、今も帰宅困難な地区が存在し、深刻な放射能の影響やまたそれに伴う風評被害も継続しています。

我々はこの経験を決して忘れることなく、未来に伝えていかなければなりません。原発は効率の良い電源ではありますが、放射性廃棄物を処理する方法もなく、一旦事故のある時は壊滅的な被害をもたらすということが認識されました。否応なく将来は再生可能エネルギーの時代へと転換していくことでしょう。既にドイツなどヨーロッパ諸国では大きくこの方向へ舵を切り、中国やアメリカ合衆国などでも再生可能エネルギーの開発を飛躍的に進めています。

しかし、再生可能エネルギーにもまだまだ課題は多く、とくに安定したエネルギー供給が見込めないことやコストなどの問題が指摘されています。太陽光発電においても夜間の発電が不可能なことから基幹エネルギーにはなり得ないといわれています。

我々同窓生は夢を若者たちに託します。この奨学金で学んだ若者たちが、理系であればやがてより発電効率の良い太陽光パネルを開発し、昼間発電した電気を十分に蓄えられる蓄電池を開発してくれることでしょう。また、文系であれば自然エネルギーを基盤にした社会をデザインしてくれるかもしれません。もちろん直接エネルギー問題に関わらなくとも構いません。人々の幸せのために貢献していこうという夢を持って学問に励んでくれることを期待します。

こうした趣旨で、長野高校同窓会は太陽光奨学金を創設しました。志をもちながらも、経済的困難を抱えている皆さんの一助になればと思います。